令和4年度 後期 教員・保護者・児童の「学校評価アンケート」の結果

	教員用の質問	平均値										児童用の質問
「思いやりのある子」の育成		教員	保護者	児童	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	ひま	「思いやりのある子」の育成
1	学校や学級で楽しく過ごせるよう支援することができた。	3.2	3.4	3.5	**3.5**	3.5	3.6	3.6	*3.5*	**3.5**	3.0	学校や学級の生活は楽しいですか。
2	思いやりや感謝の気持ちが育つよう指導・支援することができた。	**3.4**	3.3	3.4	**3.4**	**3.5**	**3.5**	**3.6**	*3.2*	*3.3*	3.8	分けへだてなく友達と仲よくしたりやさしくしたりしていますか。
3	周りの人のために進んで活動できるよう指導・支援することができた。（掃除・委員会・係活動など）	*3.1*	3.2	3.3	*3.2*	3.3	**3.4**	**3.4**	3.3	3.1	3.6	周りの人のために進んで活動していますか。（掃除や委員会活動、係活動）
4	登下校や学校生活の中で気持ちよいあいさつができるよう指導・支援することができた。	**3.0**	**3.0**	**3.3**	**3.3**	**3.2**	3.4	**3.4**	*3.2*	3.0	3.4	誰にでも気持ちよくあいさつができていますか。
5	いつもはっきりと返事ができるよう指導・支援することができた。	**2.9**	**3.0**	3.2	**3.4**	3.1	3.3	3.2	*3.1*	*2.9*	3.4	いつでもはっきりと返事をしていますか。
「進んで学ぶ子」の育成												「進んで学ぶ子」の育成
6	児童が理解できるよう、わかりやすく学習を進めることができた。	3.1	3.0	3.4	3.3	3.4	**3.5**	*3.4*	3.5	*3.3*	3.4	学校の勉強はわかりますか。
7	児童の学習意欲を高める工夫をすることができた。	*3.0*	2.7	3.3	**3.4**	**3.5**	3.4	**3.4**	*3.2*	3.1	3.2	学校の勉強に進んで取り組んでいますか。
8	家庭での学習が充実するよう計画・支援することができた。	*2.6*	2.6	3.1	3.3	*3.2*	*3.1*	3.0	*3.1*	*2.7*	3.6	家庭で毎日進んで勉強していますか。（10分×学年）
9	人の話をしっかり聞く力が身につくよう指導・支援することができた。	**3.2**	3.0	3.5	**3.5**	3.6	*3.5*	3.6	**3.5**	*3.4*	3.4	先生や友達の話をしっかり聞いていますか。
10	自分の考えをはっきりと表現する力が身につくよう指導・支援することができた。	**2.9**	**2.9**	3.1	3.0	**3.1**	*3.2*	*3.1*	3.0	3.0	2.8	自分の考えや思ったことを、はっきり話したりノートに書いたりしていますか。
11	進んで本を読むよう指導・支援することができた。	2.8	2.7	*3.2*	3.4	*3.3*	3.4	3.3	*3.1*	*2.8*	3.0	進んで本を読んでいますか。
「健康でたくましい子」の育成												「健康でたくましい子」の育成
12	規則正しい生活ができるよう指導・支援することができた。（早寝、早起き、朝ごはん）	*3.0*	*3.1*	3.3	**3.2**	3.3	3.4	3.4	*3.2*	*3.2*	3.4	規則正しい生活をしていますか。（早寝、早起き、朝ごはん）
13	進んで運動や外遊びに取り組むよう指導・支援することができた。	**2.9**	3.0	**3.3**	**3.5**	**3.5**	3.4	**3.4**	*3.0*	**3.0**	2.8	進んで運動をしたり外遊びをしたりしていますか。
14	物事を最後まであきらめない態度が育つよう指導・支援することができた。	*3.0*	**2.9**	3.4	3.5	**3.7**	3.5	*3.3*	*3.2*	**3.3**	3.0	大変なことでも最後まであきらめないで取り組もうとしていますか。
15	生命の尊さを理解し、自分や相手を尊重して生活しようとする心情が育つよう、指導・支援することができた。	**3.3**	3.2	3.5	**3.6**	3.5	3.6	*3.5*	3.5	*3.4*	3.6	心や体の健康や安全に気を付けるなど、自分や友達のことを大切にしながら生活していますか。
16	感染症予防が徹底されるよう指導・支援することができた。（手洗い・換気・健康チェック・ソーシャルディスタンスなど）	3.4	3.3	*3.5*	**3.5**	*3.6*	3.6	3.6	*3.4*	*3.4*	4.0	新型コロナウイルス感染症の予防に気を付けて生活していますか。
保護者や地域に開かれた学校、信頼される学校づくり												
17	学校だよりや学年だより、学校HPなどを通して、学校や学級での様子を家庭に伝えることができた。	*3.0*	3.0									
18	学校や学級の目標や経営方針、教員の思いを家庭に伝えることができた。	*3.0*	2.9									
19	安全・安心に生活できるよう、安全対策に努めることができた。（交通安全・防災・不審者・性被害など）	*3.4*	3.2									
20	いじめや不登校の未然防止や早期発見、早期対応などに、適切に取り組むことができた。	3.3	3.0									
21	児童のけがや事故に対する処置を適切に行い、家庭に連絡をすることができた。	**3.6**	**3.2**									

ポップ下線・・・・前期と比べて向上
ゴシック斜体・・・前期と比べて低下
あみかけ　・・・・３未満の項目
＊ひまわりを除く

令和４年度 後期 学校評価アンケート　結果の考察

１　「思いやりのある子」の項目は、全体的に評価が高い！　（前期も同傾向）

・前期から引き続き、評価の平均値が高い項目が多い。特に「①楽しい学校」については、保護者、児童ともに全項目中最も評価が高いものの一つとなっている。
・「②友達への思いやり」「④気持ちのよい挨拶」「⑤はっきり返事」の評価が、前期に比べて向上している。特に「挨拶」については、教師・保護者・児童ともに前期に比べて評価の数値が上がった。「返事」については、改善傾向ではあるが、教員の自己評価は３を切っており、今後も手立てが必要となる。

制限のある教育活動の中、それでも児童が充実感・満足感を感じられるように、学年・学級で工夫してきたさまざまな実践の成果が表れていると考えます。今後、感染症への対応や意識が変わっていくことと思われますが、引き続き、学校教育目標に沿った目指すこども像を明確にしながら、また、児童にとって必要なものを見極めながら、よりよい教育課程を進めていきたいと思います。

コロナ禍を受けて、これまで定着させることが難しかった「挨拶」や「返事」については、特に工夫した取組が必要だと考えます。現在の児童の高い自己評価と普段の様子との間には差があるように感じるからです。ただ大きな声を出させればよいのではなく、代表委員会の取組である「あいさつ運動」や学習中のきまりの見直しなどを通して、挨拶や返事の意味をしっかり価値づけし、児童自らが進んで行うことができるようにしていく必要があります。さまざまな学校生活の場面で意識できるよう、指導・支援を工夫していきましょう。

２　「進んで学ぶ子」の項目は、教員と保護者の評価が低い。でも児童は高い！（前期も同傾向）

・前期と同傾向の中、特に「⑨しっかり聞く」と「⑩自分の考えを表現」について、評価の改善が見られた。
・「⑧家庭学習の充実」「⑪進んで読書」の評価が、全項目の中でも特に低くなっている。

学力向上アクションプランをもとにした「学力向上宣言」への取組や校内研修等を生かした授業改善、また、一人一台のタブレット端末（ギガタブ）を生かした学習活動の工夫が、今回の評価改善の要因と考えられ、それらにより、児童に主体的な学習態度が身についてきていると思われます。

ギガタブが導入されて２年目となり、調べ学習での検索ツールとしての使い方だけでなく、それらをまとめたりタブレット上で友達と意見を共有したりするなどの使い方も増え、自分の思いや考えを表現する場の一つとなってきています。今後は、「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現させるために、ICT 機器を効果的に活用することが求められます。ただし、機械を使うことが目的となっては本末転倒と言えます。学習のねらいをしっかり踏まえ、それを達成するための方法を工夫する１つの方法として検討していくことが大切です。

「読書」は、児童にとって魅力ある学習の一つです。それは、休み時間には多くの児童が図書室を利用していることからも分かります。また図書ボランティアによる「おはなし広場」や図書委員会による「読書イベント」など、学校として力を入れている分野の一つでもあります。進んで読書に親しむ態度を育てるためには、その時間を保証する必要があります。また、自由読書だけでなく、教科書教材に関わる本（同じ筆者やシリーズなど）を、教師が意図的に示したり読み聞かせ、ブックトークを行ったりすることで、本の世界を広げることができるかもしれません。より読書に親しめる工夫を考えていきたいですね。

「家庭学習の充実」については毎年課題として挙がります。今年度成果が上がった学年もありますが、学年で統一した、継続できる取組を進めることが大切。

〈家庭学習の充実に向けて考えられる方策〉

①年度初めの懇談会等で、家庭学習の取り組み方について周知を図る！

「土気南小家庭学習のすすめ」を配付し、取り組めそうな内容や目安となる時間などを共通理解することで、「宿題だけやればいい」という意識を変えていく。

②家庭学習の質の改善を図る！

反復練習だけでなく、目的意識をもって学習に取り組む習慣につながる手立てが求められる。
学年の発達段階に応じて目指す児童の姿を定め、無理のないよう工夫したい。

（例）　・低学年：ドリルの自主的な反復練習（全員一律でなく、意欲に応じて繰り返すなど）
　　・高学年：自分でテーマを決めて学習するノート（自学ノート）をつくるなど

３　「健康でたくましい子」の項目は、教員と保護者の評価に比べ、児童が高い！（前期も同じ）

・「⑬進んで運動・外遊び」の児童の評価は、学年が上がるにつれて下がる傾向が続いている。
・「⑭自他の生命を尊重する」の項目では、児童・教員の評価が高い。

コロナ禍による児童の体力低下が問題になってきています。今年度、感染症予防に努め健康に過ごす中で、児童の実態に合った運動や学習を工夫してきたことが、粘り強さやあきらめない態度の育成につながってきていると考えます。校庭の分散使用をしている現状では、「ぴょんぴょんオリンピック」などの体力づくりのイベントをより活性化させることが、上学年を含めた学校全体の体力向上に効果的であると考えます。また、進めているクラスもありますが、学級会等をもとに話し合い、外遊びを活性化習慣化させることもよいです。先日の学校保健委員会において、本校の児童の体力、健康面の傾向が示されました。体力の低下だけでなくケガが多いという課題もあるようです。次年度も休み時間の校庭の使い方は、おおむね継続されますが、それらを踏まえた手立てを検討していきましょう。

本校では今年度、人権意識啓発のために、各先生方から講話をしていただく「生命を大切にする放送集会」を行いました。学級でも合わせて指導していただいたことで、自分や友達を大切にしようとする意識や多様性への理解を促進できたことが、今回の結果から伝わります。これらの考え方が普段の生活の中でも発揮されるよう、児童の様子を丁寧に見取り、声かけを工夫していけるとよいと思います。

４　「保護者や地域に開かれた学校、信頼できる学校づくり」については、教員の評価が低下！

・「㉑ケガや事故への対応」についての評価は、教員・保護者ともに向上した。
・全体的に、各項目の教員の評価が前期に比べて低下した。

学習参観・懇談会や学校便り・学年便りなどを通して、発信する場は設けられています。また、校長先生が学校の様子について、HP 上で定期的に発信してくださってもいます。とはいえ、感染症対策のために十分な発信を工夫することが難しかったことは確かです。今後、感染症対策が変化していくことに合わせて方法を工夫し、より保護者に伝わるような工夫ができるとよいと考えます。

「社会に開かれた教育課程」は学習指導要領の基本方針です。家庭・地域・社会と関わりながら学んでいく姿勢を身に付けるためにも、学校での取組を、より保護者に伝えられるよう工夫していきます。